



コムテック 購買部 のご紹介

私たち購買部は、**女性**ばかりの6人のチームで、主に受発注、お見積り、伝票処理を担当しています。111111
来客受付も担当で、年齢は**笑顔**でカバーし、真心こめてお客様に対応しています。11

普段の業務は、お客様から頂いたご注文の納品書を発行

し、業務部に出荷の手配をします。

商品の発注は、一日でも早く正確に商品をお届けできる様に心がけています。111111
また、コムテック在庫商品につきましては、できるだけ充分な在庫ができる様、ご注文の動きに注意しながら仕入を行っています。111111
お客様のご要望にお応えできる商品をお探し、お見積りさせていただき、スムーズにご注文していただける様に日々奮闘しております。11

お客様が笑顔で満足頂けるサービスを目指していますの

で、ご意見がございましたら、お声をお聞かせ下さい。



これからも、最良のサービスを提供できるように、**笑顔**で頑張っていきます！！

コーナ担当：購買部

◆和歌山情報館◆ Part1「コムテックの故郷」

コーナー担当：企画営業部

皆様こんにちは。9月に入り、残暑が厳しい季節となりました。

さて、皆様は、弊社コムテックがどこにあるかご存知でしょうか？

答えは、和歌山県（和歌山市）に本社事務所及び倉庫がございます。

では皆様は「和歌山」といえばどんなイメージをお持ちでしょうか？

地元、和歌山県民に聞くと、だいたい次のような回答が返ってきます。

「梅干し、みかん、柚子、海、山、川」等。そして

ほとんどの人が最終的にこう言います。「ま、ようするに『田舎』だよな。」と。



そう…和歌山は「田舎」です。でも、それがまた良いところ

です。大自然にあふれた山、川があり、綺麗な海もあります。果物も豊富ですし、マグロやカツオといった



漁も盛んです。**毎**日の食卓にかかせない「お醤油」も実は和歌山が発祥の地…！

これからの時期だと、柿やみかん、栗などの味覚狩りも楽しめます。



こちらのコーナーでは、コムテック及びコムテックメンバーが育った「和歌山」をテーマにした、あらゆる情報を皆様に楽しくご紹介していきたいと思ひます。どうぞご期待下さい。

今回はほんの少しだけ和歌山城をご紹介します



和歌山市の中心部にある観光名所です。春は桜、秋は紅葉がとも綺麗です。散歩やジョギングに訪れる人も多く、観光客だけでなく地元の人にも親しまれています。現在、城内各地へスロープが設置され、車イスの方でも天守閣へ行けるような事業も進められています！

私達が、皆様に商品をお送りする際に使っている緩衝材について、お話します。シュレッターにかけた書類を再利用したこのような緩衝材をご覧になったことは、ないでしょうか。



これは、和歌山県立紀北支援学校の高等部の皆さんが、作ってくれています。シュレッターにかけた書類は、再生紙にもできない為、処分するしかないのですが、これを、緩衝材として再利用して

います。大きさも、大・小使いやすいように、作ってくれています。支援学校の先生は、「この作業をするようになって、自分達の作ったものが社会の役に立っていることを知り、大変やりがいを感じているようです。」とお話してくれました。

ぎっしり中身のつままったものや、ふんわりしたもの、色々な形があると思いますが、1つ1つに生徒の皆さんの気持ちもこもっています。

捨てるだけのシュレッター書類も、こうして、商品を守る緩衝材として蘇り、資源のリサイクルと介護・福祉のお役にたっていることは、何とも感慨深いものがあります。

これからも、皆様に喜んで頂くことは、もちろんですが、地球に優しく、地域の皆さんにも喜んでいただける・・・みんなが笑顔になれる梱包を目指したいと思います。



今日も、はあとを込めて、商品をお届けします！！

はなことば



9月19日
敬老の日の花
カコソウ(夏枯草)
花言葉：優しく癒す

コラム 衣替え

9月に入り、そろそろ秋を感じたいところですが、残暑の厳しい日が続いています。皆様はいかがお過ごしでしょうか。話題だけでも秋を感じていただけるようにテーマは「衣替え」です。衣替えの歴史はとても古く、平安時代の宮中行事から始まったと言われています。中国の風習に倣って旧暦の4月1日と10月1日に、夏服から冬服を着替えると決め、この風習を当時は「更衣(こうい)」と呼んでいたようです。

現代の6月1日と10月1日に衣替えをする風習は、明治時代に役人・軍人・警察官の制服を洋服に定め、衣替えの日も決めたことに始まります。時とともに、これが学生服に、次第に一般の人達にも定着し、官庁・企業・学校が6月1日と10月1日に衣替えを行うようになりました。

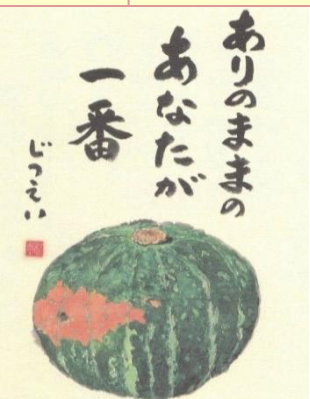
歴史上の経緯からみると、衣替えは日本特有の風習のようですが、昨今ではクールビズやウォームビズが新たな風習となりそうですね。

コーナー担当：東京支店



～作者紹介～

- 小藪 実英さん
- 昭和26年11月5日生
- 丹州観音住職
(丹波あじさい寺)
- 法務の合間をみて詩画墨彩画の製作に励む
- 詩は自分の心の修行を言葉に表したもの



ありのまま

この猫たちは大の仲良し。いつも揃って食事します。あれ・お皿がもう一つ？唯一マイペースなもう一匹は、他の猫たちが食べ終るまで、猫たちからこっそり食べるようにです。を好む動物ですけれどね笑



ほこりの写真